

## 花の仕事

---

### 1) 店舗

- 仕入れ
- 水揚げ
- 花の陳列
- 水換え、店内の清掃
- 注文品の制作
- 店頭のお客様の対応
- 配達

### 2) 婚礼

#### ブーケ制作

- 花嫁さんとの打ち合わせ
- デザイン作成
- 花材出し、発注
- 挙式前日に制作、当日に仕上げ、当日指定時間にお届け

#### 会場装花制作

- 新郎新婦との打ち合わせ
- デザイン作成
- 花材出し、発注
- 制作 3日前から下準備、制作前日、披露宴前に搬入、セッティング
- 披露宴終了後すぐに撤収

### 3) スクール

- 講師資格取得
- 花屋などの現場経験
- 生徒集客
- スクールに所属する講師として活動
- 自分の技術、知識向上のための勉強

4) 葬儀

- 依頼を受けたらすぐに対応できるお花を常にストック
- 仕入れ
- 事前に制作できるものは制作
- 会場設営
- 撤収

5) 仲卸 花き市場での卸売業

## 花き市場

---

切花や鉢花などの観賞用の植物を「花き」といいます。

この「花き」も生鮮食料品などと同じ様に、保存が難しく、生産量が自然条件により左右され、価格が変わりやすいという特性を持つため、中央卸売市場の「花き部」で取引され、切り花は月、水、金に取引されます。

### ◇荷おろし（午後 11 時頃）

全国の花の産地からいろいろな切花や鉢花が入荷します。

到着した品物は卸売業者が受け取り、段ボール箱に入った切花やコンテナに入った鉢花が卸売場にならべられます。

### ◇取引準備（午前 3 時頃）

花は保存がききません。いきいきした花の鮮度を保つために、一定の温度を保ちながら定温倉庫でせりが始まるのを待ちます。

### ◇（午前 6 時～7 時）

仲卸業者、売買参加者は全国から届いた花々を入念にチェックし、あらかじめ買いたい花々を選び、いくらぐらいで買おうかを決めて、これから始まる取引に備えます。

### ◇オークション（=せり）の始まり（午前 7 時 00 分～市場により異なる）

花の取引では「せり」をオークションと呼ぶようになりました。

花き市場のオークションは、「せり時計」と呼ばれる電光掲示板に花の情報が表示され、商品見本を見ながら取引を行います。

買い手は、手元のボタンで値段を決め、買いたい花きをせり落とします。

### ◇仲卸売場（午前 6 時～午前 12 頃）

場内には仲卸業者の店があり、売買参加者以外の街の花屋さんたちは、ここで花を仕入れることができます。

### ◇街の花屋さんへ（午前 10 時頃～）

こうしてさまざまな花が街の花屋さんへ運ばれます。

## 必要な道具

---

まずは、フラワーアレンジメントを作る際に必ず用意すべき道具について紹介します。

- 花ばさみ



フラワーアレンジメントでもっともよく使う道具は、花ばさみです。

花の茎を切ったり、ラッピングを切ったりなど、花ばさみが活躍する場面は多数あります。

フラワーアレンジメントでは、いろいろなものを切る必要があるため、花ばさみが傷みやすいという問題があります。

そのため、花ばさみはできるだけ、用途によって細かく使い分けるのが理想です。

花ばさみの使いわけは、以下となります。

### \* 花の茎用

フラワーアレンジメントの花ばさみとして、一番よく使うはさみです。

花の茎は斜めに切ることが多いため、専用のよく切れるはさみを用意しましょう。はじめのうちは安価なものでも構いませんが、花の茎は切り方、切った茎の断面の状態によって花持ちがかわってきます。

### \* 太い枝用

フラワーアレンジメントでは柔らかい茎だけでなく、固い枝を切ることもあります。

通常の花ばさみでは、固い枝は切りづらいことが多いです。

はさみに無理に力を入れると、刃こぼれや歪みの原因になるため注意しましょう。また、茎のなかにも枝のように固くなっているものもあるため、そのようなときには固いものを切るのに向いている枝切はさみを使用しましょう。

#### \*ワイヤー用

フラワーアレンジメントではワイヤーを切ることもあります。

ワイヤーは、茎が長い花や細い枝を支えるために使うなど、アレンジの小道具として活躍します。

ワイヤーは紙を切るためのはさみや花ばさみでは切りづらく、はさみを傷めてしまう可能性もあります。

そのため、ワイヤーを切るためのはさみも用意しておくのがおすすめです。

なお、フラワーアレンジメント用の花ばさみや太い枝を切るのに向いている刃の大きなはさみには、ワイヤーを切ることができるような工夫がされているものもあります。

#### \*紙やセロハンなどのラッピング用

ラッピングを切るためのはさみは、日常でよく使う文房具のはさみで OK です。よく切れるものを用意しましょう。

### ● 花器



店舗ごとに基本となる器を決めて値段によって大きさを変えて使用しています。持ち帰りしやすい軽くてシンプルな器はどんなテイストのアレンジにも使用することができます。

ブリザードフラワーやアートフラワーでフラワーアレンジメントをするときは、アレンジのイメージに合わせて花器にもこだわりを持つことが多いです。花器も含めて1つの商品とみなされますから、素敵な花器を使用することも必要です。

- 吸水性スポンジ



フラワーアレンジメントを制作する時に使用します。

なお、一度使ったものや一度水を吸わせて乾いてしまったものは再利用しません。また、オアシスを使わずに銅線やアルミ製のワイヤーで花留めを作ることも可能です。

銅線やワイヤーをくるくると丸めて花器のなかに入れて、これに茎を刺すことで花を固定できます。

- その他

※シサル麻



シサル麻は、ヤシの皮を裂いて乾かしたものです。

この細いひも状のものをリボンの代わりに使用することがあります。  
これを使うと、リボンでは出せないナチュラルな雰囲気を出すことができます。

#### ※ラッピング用品



アレンジに合うラッピング用品、花束ではリボンも使用します。  
メインはあくまでも花であるため、派手な柄がついているようなものは避け、無地のものを使用することが多いです。

#### ※ワイヤー、フローラルテープ



ワイヤーは、ブーケ、ブートニア、コサージュなどを作る時、茎が長い花や細い枝を使ったアレンジをするときに使用します。

ワイヤーを使うことで花や枝の向きを自由に調整することができます。

また、プリザードフラワーやアートフラワーでフラワーアレンジメントを行うときは、ワイヤーを茎の代わりとして使用します。

プリザードフラワーやアートフラワーを扱う時は必ず用意します。

## 水揚げ

---

市場で仕入れたお花は必ず水揚げという作業をします。  
この作業のやり方によってお花のもちが変わってくる重要な作業です。

まず、余計な葉や傷んでいる花を取り除きます。  
それから咲きそうにない硬い、小さいつぼみも取り除きます。  
そうすることによって余分な葉からの水分蒸散を防ぎ、咲かないつぼみにエネルギーを使うことがなくなりますので花が長持ちします。  
活けたときに水に浸る部分の葉は腐りやすいので全部取り除きます。

### 【水切り】

基本的な水揚げの方法はバケツなど大きな容器に水をはり、そのなかに花の茎を入れて先をカットします。  
水の中のなるべく深い位置で根元から2~3cmのところを斜めに切ります。  
茎が短ければ1cmでもよいです。  
そのまま水が上がるまでバケツに立てて置いて下さい。  
深い位置で切ることでより水圧が強くなるので水上がりが早くなります。  
そして斜めに切ることでより吸水面が広くなり沢山の水を吸い上げられます。  
既にしっかり水が上がっている花を水切りする場合は、空気の侵入とバクテリアの除去が目的なので浅くても大丈夫です。  
そのまましばらく水につけておくことで茎が水をしっかり吸収し、花がより生き生きとした美しい状態になります。  
何種類かある水揚げの中で多くの花に使える基本とされる方法がこの水切りです。

### 【水折り】

水折はハサミではなく手でポキッと折ります。  
折るだけでも水が上がりますが、水切りと同じ原理で、水の中でする水折りが効果的です。

ハサミを使わないので、ハサミからのバクテリア侵入がありません。  
しかし水切りとは違いこの方法が使えるのは、手でポキッと折ることが出来る花に限られてきます。

### 【湯揚げ】

水上がりが悪い、水下がりが激しい花に対して行います。

花屋さんでは一般的ですが、割と知られていない方法かもしれません。

60°C~100°Cのお湯を準備して、花が湯気で傷まないように新聞で包みます。

根元から 1cm 辺りを切り、直ぐにそのお湯につけてください。

茎の先だけでいいです。

細い茎のもので 10 秒程度、太い茎のもので 20 秒~40 秒程度つけておきます。

そののち素早く水に立てます。

熱湯につけることによりバクテリアの死滅、導管の空気を抜くことができます。

お湯に浸かっていた部分は変色するので水が上がった後に切り戻します。

### 【燃烧】

茎が硬く水上がりが悪い花に対して行います。

火の熱で傷まないように湿らした新聞で花を包みます。

根元から 1cm 辺りを切り、更に 1cm 程をコンロなどの火で焼きます。

炭化するまでしっかり焼きます。

その後直ぐに水に立てます。

水が上がったら炭状の部分は切り戻します。

### 【割る、裂く、叩く】

枝物に対して行います。

枝物は全体的に水上がりがよくありません。

ハサミで切れない硬く太い茎は十文字に縦に割ります。

横には切れませんが縦にならハサミで割れます。

茎が比較的割れやすいものは、金づちなどで叩きます。

その場合、叩き潰すのではなく、叩いて茎の繊維をほぐすイメージで叩くことにより吸水面が広がり水上がりがよくなります。

### 【削ぐ、剥ぐ】

アジサイやビバーナムなどの茎が木化しているものに適しています。

切り戻しをし、根元から 3cm 辺りを、ナイフやハサミで表皮一枚程度を削ぎます。

更に茎の中の綿状の部分が見えるくらい削ぎ、綿状のものを取り除きます。

そうすることによって、茎の表面、中心部から水を吸い上げられます。

しかし露出部分が多いのでバクテリアの影響を受けやすいので水が上がった後はその部分は切り戻します。

### 【深水、逆さ水】

水切りや湯揚げをしても上がらなかった場合や著しく水が下がっている場合に試します。

深水は新聞紙ですっぽりときつめに包み、水切りや湯揚げをします。

そして花の首元辺りまで浸かるくらい深い水に立てて置きます。

水上がりは非常に高くなりますが、長時間そのままですと葉や花が蒸れて傷んでしまいますので水が上がったら速やかに適量の水に立てなおします。

逆さ水は細かい葉が密集していて蒸れやすく、深水では傷んでしまう場合や葉物に適します。

花の部分を下になるよう逆さに持ち、花の部分にはかけないように葉の裏に水をたっぷりかけます。

その後、水切りや湯揚げなどの水揚げを行います。

水が上がりましたら早めに葉にかけた水分を取り除きます。

### まとめ

この水揚げがしっかりとされたかで花の日持ちも違ってくる、花屋さんにとってもすごく大事な作業です。

## フラワーアレンジメントの制作

---

### 花材を生ける際のコツ

花を生けるときはその順番が大切です。

主役の花やアウトラインを構成する花から生けます。

そのほかの花はバランスに気をつけながら、メインの花のまわりを埋めるように入れていきます。

また、作業の途中でときどき遠くから全体を見るようにすると、全体のバランスを整えやすくなります

### アレンジメントの基本形

- 1.ラウンド（ドーム）
  - 2.トライアングュラー
  - 3.ホリゾンタル
  - 4.バーチカル
  - 5.L シェイプ
  - 6.ホガース
  - 7.コウン
  - 8.オーバル
  - 9.クレッセント
  - 10.ファン
  - 11.インバーテッド T
- など